

平成21年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	萌芽研究		研究代表者 氏 名	鈴木 佳苗
研究課題	テレビゲームの暴力描写への接触に対する保護者の介入：社会性への影響			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部 局・職	現在の専門	役割分担	
鈴木佳苗	筑波大学・図書 館情報メディア 研究科・准教授	社会心理学 社会情報学	研究統括	
研究目的				
<p>暴力的なテレビゲームの使用は子どもたちの社会性に悪影響を及ぼす場合があることが示されてきているが、現実的に子どもたちの日常生活からテレビゲームを完全に取り除くことは難しく、こうした悪影響をどのように低減・予防していくかが課題となっている。具体的な予防策の1つとしては、暴力的なテレビゲームに対する保護者の介入（子どもたちへの働きかけ）がある。本研究では、大学生を対象として、テレビゲームの暴力描写への接触が攻撃性および向社会性に及ぼす影響に対する保護者の介入の効果を検討することを目的とした。</p>				
研究成果				
<p>本研究では、大学生を対象として、よく使用するテレビゲームの暴力描写の特徴、社会性（攻撃性、向社会性）、家庭でどのようなテレビゲーム使用のルールがあったかについて尋ねる2時点のパネル調査を実施した。パネル調査とは、同一の対象者に同一の項目を複数回尋ねることによって、変数間（テレビ視聴と攻撃性など）の因果関係を推定するための手法である。</p> <p>本研究の調査項目は、米国アイオワ州立大学のアンダーソン教授の研究室と共同で作成しており、1時点目の調査は、海外の複数の研究グループが参加する国際比較調査となっている。日本の大学生を対象としたパネル調査は、2010年3月末までに終了している。分析の結果、半数以上の学生がテレビゲーム使用の時間制限のルールがあったと回答していたが、暴力的なテレビゲームの使用に関するルールがあると回答していた学生は1割強と少なかった。今後、調査項目の得点化についてアンダーソン教授らと議論しながら、テレビゲームの暴力描写への接触が攻撃性および向社会性に及ぼす影響に対して、保護者のどのような介入が効果的でありえるのかを検討するための分析を進めていく。</p>				
代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等				
<p>本研究の1回目の調査は、海外の複数の研究グループが参加する国際比較調査（横断的調査）として実施し、日本、米国を含め、4か国で調査を終了している。現在、引き続き複数の研究グループからのデータを待っているところであり、本研究の結果を踏まえて、今後、子どもたちを対象とした調査を実施することを予定している。</p>				